

## 周産期分科会

### 1. 分科会の目的

医療現場では、実用可能な ICT の開発が近年進み、遠隔医療や電子カルテネットワークはめざましい変貌を遂げてきた。その中で、周産期医療分科会は、周産期医療における ICT の応用に関し、国内でも最新状況の調査と国際普及を目的として活動している。

産婦人科や産科医の減少傾向は著しく、深刻な問題となっており、遠隔周産期医療や、救急搬送時における胎児モニタリング ICT の利活用拡大が、周産期医療を安定的に提供するために求められている。

また、妊婦や胎児の遠隔医療の推進や、クラウド型胎児心拍計の実用例と効果測定にも取り組む。

### 2. 令和 6（2024）年度活動実績と成果

少子化により診療機会が減少している疾患に対し、遠隔教育研修を通じて診療レベルの維持を図った。出生後の呼吸障害や先天性疾患に対する周産期センターへの救急搬送トリアージでは、従来の電話による情報の限界超え、ビデオ通話の積極的な利用を推進した。

日本遠隔医療学会学術大会では、周産期分科会（座長 鈴木真先生）で多数の発表が行われた。

### 3. 令和 7（2025）年度活動計画

遠隔胎児心拍数モニタリングシステムの国内普及を進めるにあたり、セントラルモニタリングシステムとの連携基盤の整備が追いついていないため、今後はこの基盤の普及に努める。これは、母体胎児救急搬送の活用などに恩恵が期待される。

産婦人科医減少により、地域連携が急務、国や県との連携を強固にする必要がある。各先生方と役割分担して、課題解決に努める。

また、少子化による診療機会の減少にも対応し、その診療レベルを維持するために、遠隔教育研修の更なる普及を目指す。

日本遠隔医療学会学術大会では、周産期分科会（座長 鈴木真先生）の枠での発表を計画する。

A 演題、B 演題などの投稿を促す。